

5G(SA方式)のスライシング提供に対応したネットワーク開放ルールの在り方

KDDI株式会社

2026年5月19日

論点1 5G(SA方式)及びスライシングの提供状況

論点	当社意見
5G(SA)及びスライシングの提供状況	<ul style="list-style-type: none"> スライシングについては、5Gの高速・大容量・低遅延の特性を活用できるよう、映像伝送、映像分析、遠隔操作・遠隔操縦等の様々な実証実験を行っております。これらの実証実験等を通じて、安定的な通信環境を提供するため、技術的な課題の検討を行い、様々なユースケースの発掘に取り組んでおります。 2025年4月より実施している放送事業者様との「有償トライアル」では、高校野球(甲子園球場)、サッカー日本代表戦(国立競技場)等で、一般のお客さまに影響を与えないよう期間・エリアを限定し実施いたしました。

<スマホで撮影した映像を中継で放送した様子>



2025年4月17日
 センバツ高校野球にて、映像中継業務の作業負荷解消と新たな視点での映像体験を実現
https://newsroom.kddi.com/news/detail/kddi_nr-508_3784.html

2025年11月26日
 au、サッカー日本代表戦の生中継にSub6とミリ波を組み合わせた「マルチバンドスライシング」を提供
https://newsroom.kddi.com/news/detail/kddi_nr-848_4229.html

論点2 5G(SA方式)におけるネットワークの機能開放の推進(1/2)

	論点	当社意見
L2接続相当	L2接続相当の開放に向けた協議において課題があるか。	<ul style="list-style-type: none"> 協議に関する課題は特にございません。
	MVNOにおける負担軽減が期待できる別の方式についての検討状況はどうか。	<ul style="list-style-type: none"> MVNOからの要望に応じて検討する考えです。
	L2接続相当が実現した場合、MNOが現に提供しているネットワークスライシングを活用したサービスと同等のサービスをMVNOが提供可能になると考えるか。	<ul style="list-style-type: none"> 現在、当社が提供しているネットワークスライシングを活用したサービスは、実証実験や、時間・場所・用途を限定した特定法人向けの個別ソリューションを通じて、技術的・運用的課題の検証を行っている段階にあります。そのため、一般利用者向けや広く事業者向けに提供するサービスの実現には至っていない状況です。 特に、スライシング特有の機能を利用しない他の一般のお客さまへの影響を適切に制御することが重要であり、これを前提としたネットワーク運用・管理方法について慎重に検討を進めております。 今後は、まず当社内において段階的に検証を行い、ネットワークとして安定的な提供が可能であることを確認した上で、当社の一般利用者向け提供やMVNO向け提供の在り方について検討を進める方針です。その中で、MVNO向けに提供する際の管理方法や提供条件についても、技術的・運用的観点を踏まえて評価を行っていく考えです。

論点2 5G(SA方式)におけるネットワークの機能開放の推進(2/2)

	論点	当社意見
L2接続相当	L2接続相当がアンバンドル要件(①他の事業者から機能のアンバンドルに係る要望があること、②アンバンドルすることが技術的に可能であること、③アンバンドルに当たって二種指定事業者に過度な経済的負担を与えることのないこと、④必要性・重要性の高いサービスに係る機能であること)を満たす場合には速やかにアンバンドル機能と位置づけることが適当と考えられるが、要件を満たしているか。満たしていないと考える場合、どの要件を満たしていないと考えるか。	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では、アンバンドル要件のうち「②アンバンドルすることが技術的に可能であること」や「③アンバンドルに当たって二種指定事業者に過度な経済的負担を与えることのないこと」について、まだ明確に満たしている状況にはないと考えます。 そのため、引き続き、事業者間協議の状況を注視することが適当と考えます。
	L2接続相当がアンバンドル要件を満たしていない場合、「開放を促進すべき機能」に位置づけることについてどう考えるか。	<ul style="list-style-type: none"> 「開放を促進すべき機能」であっても、少なくとも②③要件を将来的に満たし得る見通しの確認が必要と考えます。 加えて、特定のMNOで検討中の方式を前提とすることは適切ではなく、①MVNOからの要望の有無も含めて判断すべきと考えます。
その他接続形態	ライトVMNO、フルVMNOの各形態の開放に向けた協議において課題があるか。	<ul style="list-style-type: none"> 協議に関する課題は特にございません。

論点3 スライシング提供に対応したネットワーク開放ルールの在り方

論点	当社意見
<p>スライシングの実現により、超高速、多数接続、超低遅延といったスライスの設定が可能になることが想定されるが、その際のデータ接続料の在り方についてどう考えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none">スライシング機能では、サービスやアプリケーションに応じて柔軟にネットワークを提供することができる一方で、ネットワークを最適化するノウハウや、スライシング特有の機能を利用しないお客さまへの影響を適切に制御するよう常時監視・運用する必要があります。スライシング機能の特性・運用責任等に応じ、条件差を適切に反映した制度設計となるよう機能料金についても検討する必要があります。また、今後5G本格化においては、4Gまでの延長線上にある「高速・大容量」に加え、「低遅延」「多接続」といった新たな技術の活用が期待されています。これまでの同質トラヒックに対するネットワークリソースを提供するというデータ接続料(帯域料金)のようにコストベースの考え方だけでは限界があると考えます。

「つなぐチカラ」を進化させ、
誰もが思いを実現できる社会をつくる。

KDDI VISION 2030

